

柔道整復の理念と歴史		講義	講師 佐藤 康宏
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング 12331102

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は国民医療の一端として、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。柔道整復術の現代的意義について「患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と高度の医学的知識の修得が必須である。」と言うように、崇高な理念について学ぶことで柔道整復の進歩発展につながるものと考えられる。

また、医学史は現代医学の礎となり、今後も学ぶべき点が多い学問領域だと考える。時代に遅れないように常に研究していくことが重要な柔道整復にとって、先人たちが積極的に取り込んで築き上げた歴史を学ぶことも進歩発展につながることを理解して講義に参加していただきたい。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、過去の映像や記録から具体的な出来事を取り上げて、パワーポイントで説明も行う。また、理解の定着を図るため、講義の途中でレポートを作成する。

3. 授業計画

1. ガイダンス（柔道整復師の仕事について）	8. 柔道整復術の現代的意義
2. 柔道整復術および柔道整復師の沿革① 医療の起源と発展 柔道整復の基本理念の成立	9. 業務範囲と心得① 業務範囲と条文 業務範囲と指導要領 業務範囲と柔道整復術
3. 柔道整復術および柔道整復師の沿革② 海外との交流 江戸時代前期	10. 業務範囲と心得② 業務禁止と施術制限 権能と施術目的 業務範囲と施術限界
4. 柔道整復術および柔道整復師の沿革③ 江戸時代の接骨術への影響 明治・大正時代	11. 業務範囲と心得③ X線と附帯決議 的確な判断 柔道整復師としての心得
5. 柔道整復術および柔道整復師の沿革④ 柔道整復術の公認 第二次大戦後	12. 柔道整復師倫理
6. 柔道整復術および柔道整復師の沿革⑤ 柔道整復師法の成立 国家試験への移行 指導要領の制定	13. 柔道整復師概論
7. 柔道整復師と柔道	14. 西洋医学と東洋医学について
	15. まとめ レポート提出後に重要箇所について解説

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の授業内容を、復習しておく。復習には前回に自分が作成したレポートを参考にする。なお、これらの準備学修には、1時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、重要箇所について解説を行う。訂正箇所があった場合は後日、改めて提出日を設定する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復の理念と歴史について十分に理解し、最終的に柔道整復術の現代的意義について自らの考えをまとめてレポートを作成すること。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（50%）およびレポート審査（50%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト，参考文献，資料等は必要に応じて配布する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては、難しい人名漢字が多く出てくるので、辞書（電子辞書）を持込可とする。その他、疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、講道館柔道六段，柔道整復師免許，柔道整復師専科教員資格を有し，接骨院に勤務，文化人類学や社会人類学における海外でのフィールドワーク等の実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。